

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性													
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)	決算額 (千円)											
I-3-(3)-① 北九州環境みらい学習システムの推進	1	④ ⑰	北九州環境みらい学習システム「ドコエコ！」推進事業	環境学習課	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行う。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標	85.0 %	85.0 %	95.0% (R12年度)	3,441	3,620	3,343	7,150	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、エコツアーは縮小実施したが、参加者数は2,698人と令和3年度より約1,190人増となった。また、SNS等を通じた情報発信も継続的に行うことができ、成果指標の達成率も令和3年度より上昇するなど、一定の効果があつたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 エコツアーについては、令和3年度より参加者数が増加した。また、環境コンシェルジュを中心にSNS等を通じて、環境学習に関する情報を提供した。この結果、環境活動を行う市民の割合が7割を超えたため、「順調」と判断。  【課題】 SNSやホームページ等の様々な媒体をより充実させるなど、継続的かつ効果的に情報発信をする工夫が必要である。	令和5年度から、環境ミュージアム管理運営事業に統合して実施しているが、引き続き持続可能な社会づくりを進めるため、多世代の市民が、有意義な学習ができるよう、SNSやホームページ等を活用して、より効果的な情報発信に取り組む。												
								実績	66.9 %	71.4 %																						
								達成率	78.7 %	84.0 %																						
I-3-(3)-② 環境人材のスキルアップと活用	2	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務	環境学習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営及び様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標	360 回	360 回	360回 (R5年度)	75,031	77,087	75,383	9,225	順調	環境学習サポーターによる出張ミュージアムの回数が令和3年度に比べ増加した。 また、環境ミュージアム開館20周年イベントや、長期休暇を利用したイベントの開催により、利用者数の回復傾向がみられたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 環境ミュージアムでは、様々なイベントを開催するとともに、環境学習サポーターによる出張ミュージアムの実施や講座、オンラインでの講座、館内ツアーに取り組むなど、環境人材の育成・活用に努めており、好評を得ている。こうした取組の成果もあり、環境ミュージアム利用者は回復傾向にあり、また、環境首都検定の受検者数も、目標を達成したため、「順調」と判断。  【課題】 環境人材の更なる育成を図るため、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等との協働を進め、活動の強化を図る。	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務では、地域における環境リーダーの育成にむけて、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等との協働を進めるなど、活動の更なる強化を図るとともに、現存のコンテンツの充実を図り、引き続きオンラインイベントや講座等を開催する。 環境人材育成事業については、引き続き環境首都検定受検者増加に向けて、企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行い、市民全体が環境に更なる関心を持つよう取組を進める。												
								実績	249 回	291 回																						
								達成率	69.2 %	80.8 %																						
	3	④	環境人材育成事業	環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人材を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標	5,500 人	5,500 人	5,500人 (R5年度)	12,748	13,567	11,762	9,975	順調	受検啓発については、会場等の閉館等があり、実施回数が増えたと伸びなかったものの、令和3年度に引き続き、全受検区分でWeb受検を実施したことにより、受検者数の目標値を達成したため、「順調」と判断。	順調	【課題】 環境人材の更なる育成を図るため、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等との協働を進め、活動の強化を図る。 また、環境首都検定の受検者増加に向けて、パンフレット等を通じた広報活動を行い、学校だけではなく一般受検者も増加する工夫が必要である。													
								実績	5,502 人	5,751 人																						
								達成率	100.0 %	104.6 %																						

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
I-3-(3)-③ ESDの 推進	4	④ ⑰	ESD活動支援 事業	環境 学習 課	<p>持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。</p> <p>アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合</p>		目標	90.0 %	90.0 %					順調	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや会議が対面では実施できないこともあったが、オンラインでの会議や講演会を積極的に行うなど、事業の円滑な実施に取り組み、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につなげたため、「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや対面での会議が実施できないこともあったが、そのような中で、オンラインでの会議や講演会を積極的に行うなど、事業の円滑な実施に取り組み、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につなげるなど、ESDの推進に取り組んだため、「順調」と判断。</p> <p>【課題】 引き続き様々なステークホルダーとの協働により、ESD活動の推進を図ることが必要である。</p>	<p>持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、様々なステークホルダーとの協働、組織運営の強化などを通じて、ESD活動を推進する。</p>	
II-3-(4)-② 国際協力・交流の 推進	5	⑫ ⑰	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	<p>途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施する。</p> <p>また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施する。更には、市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指す。</p> <p>戦略的環境国際協力事業の件数（累計）</p>	6件 (H26年度)	目標	14 件	15 件					順調	<p>新型コロナウイルス感染症による出入国に係る水際対策の緩和により、現地派遣が再開し、オンライン協議と対面協議を活用して事業を進めた結果、「環境国際協力推進事業」の目標件数を達成したため、「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】 環境国際協力推進事業及びアジアの環境人材育成拠点形成事業について、上半期は新型コロナウイルス感染症の影響で現地渡航や来日研修が困難であったが、下半期は水際対策の緩和により、現地渡航や来日研修が再開され、対面での事業実施が可能となったことにより、事業の推進につながった。上記を踏まえ、環境国際協力・交流を推進したことから、「順調」と判断。</p> <p>【課題】 研修や受講者数の増加に向け、各国、都市の状況やニーズをタイムリーに把握することが必要。</p>	<p>「アジアの環境人材育成拠点形成事業」は、令和5年度から、「アジア低炭素化センター推進事業」と統合し、「環境国際推進事業」として実施する。</p> <p>引き続き、国や国際機関等の補助事業を活用するとともに、KITAやJICAなど関係機関との連携を図りながら環境国際協力・交流を推進する。</p>	

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)						
	6	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯	アジアの環境 人材育成拠点 形成事業	環境 国際 戦略 課	アジアの途上国 やその都市が自らの 力で環境改善の 取組を進めること ができるよう、 JICA等国の支援や 連携により、実践 的な国際環境研修 事業を推進してい く。 海外からの研修 員を受け入れるこ とにより、環境問 題解決の一助を担 うとともに、現地 の環境改善や海外 諸都市とのネット ワーク構築、ひい ては環境国際ビジ ネスへの事業展開 に繋げる。	アジアの環境人材 育成のための研修 員等の受講者数 (単年度)	1,209人 (H26年 度)	目標 460 人 実績 308 人 達成率 67.0 %	460 人 321 人 69.8 %	460人 (毎年 度)	0	728	0	4,400	順調	新型コロナウイルス感染症 の影響により、上半期は全て の研修が遠隔での実施となっ た。下半期は来日研修を一部 再開し、現地見学や体験等、 研修内容の充実化を図ったた め、「順調」と判断。			
Ⅲ-1- (1)-③ まち美 化活動 の拡充	7	⑩ ⑫ ⑭ ⑮	まち美化等啓 発事業	業務 課	北九州市空き缶 等の散乱の防止に 関する条例（まち 美化条例）に基づ き、ポイ捨てのな い清潔で美しいま ちづくりを推進す るため、市民や企 業、ボランティア 団体等と連携し、 まち美化事業を実 施する。 市民の環境美化 に対する関心及び モラル・マナーの 向上を図り、「世 界の環境首都」に 相応しい清潔で美 しいまちづくりを 推進する。	まち美化ボラン ティア清掃参加者 数（単年度）	131,314 人 (H28年 度)	目標 138,000 人 実績 64,055 人 達成率 46.4 %	138,000 人 76,620 人 55.5 %	138,000 人 (毎年 度)	3,304	3,578	3,145	3,075	順調	新型コロナウイルス感染症 への社会の対応が変化する 中、ボランティア清掃参加者 数は戻りつつある。一方で、 春の“クリーン北九州”まち 美化キャンペーン事業のごみ ゼロ清掃において雨天中止の 会場があった影響により、 「まち美化ボランティア清掃 参加者数」の目標達成率は 55.5%にとどまった。 他方、「アンケート調査に おける地域でのまち美化清掃 実行の割合」は、多くの市民 がまち美化ボランティア清掃 に参加するなど、一定の成果 を収めている。以上により、 各成果指標の目標達成率の平 均が60%以上となったため、 「順調」と判断。	【評価理由】 一定数以上の市民がまち美 化ボランティア清掃に参加す るなど、まち美化活動が市民 参加型の事業として定着し、 市民の意識向上につながっ ていると考えられるため、「順 調」と判断。  【課題】 清掃参加者の固定化、高齢 化等による団体の解散など、 対策が必要である。特に若い 世代の参加割合が低いため、 幼少期からの環境教育の充実 やまち美化清掃への参加を呼 びかけるなど工夫が必要であ る。	誰もが地域でのまち美化清 掃を常日頃から実行するよう 意識づけるため、市民に向け て積極的に啓発活動や広報活 動を行う。	

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施					【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度 決算額 （千円）	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）						
IV-1- (1)-④ 地元製 品・サ ービス の利 活用 の推 進	8	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境イノベーション促進事業	環境イノベーション支援課	大学との連携やエコプレミアム認定品を切り口に、学生のうちから環境イノベーションに関係した企業や業務に触れる機会を作り、将来の環境イノベーションを担う人材育成に繋げていく。また、今後の脱炭素化の急激な社会情勢に対応していくためにも、脱炭素経営の認知度向上や意識付けを行い、地元企業の競争力強化に繋げていく。	北九州エコプレミアム選定件数（単年度）	目標		5 件	累計240件（R6年度）	—	9,654	8,204	5,825	順調	北九州エコプレミアムについて、単年度としては目標を下回っているものの、中期目標の累計240件に向かって、選定件数は着実に増加している。 また、支援企業社数について、市内企業の脱炭素サプライチェーン支援事業を実施した結果、事業への応募が予定を僅かに下回ったことにより、目標を達成することができなかったものの、概ね予定していた企業数を支援することができた。 加えて、エコタウン事業の投資額については、目標を上回っている。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州エコプレミアムについて、単年度としては目標を下回っているものの、中期目標の累計240件に向かって、選定件数を着実に増やしている。また、学生に環境イノベーションに関係した企業や業務に触れてもらい、将来の環境イノベーションを担う人材育成に繋げる機会を設けることができた。 支援企業社数について、脱炭素サプライチェーン支援事業への応募が予定を僅かに下回ったことにより、目標を達成することができなかったものの、エコタウン事業の投資額については目標を上回っている。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。	市内企業の実証研究や、脱炭素化に取り組む企業への支援などを通じて、環境イノベーションにつながる施策を展開していく。
							実績	9件 累計190件（H26年度）	4 件										
							達成率		80.0 %										
						エコタウン事業による投資額（単年度）	目標		7 億円	7億円（毎年度）									
							実績	9億円（H26年度）	12 億円										
							達成率		171.4 %										
支援企業社数（累計）	目標		10 社	30社（R4～R6年度）															
	実績	—	9 社																
	達成率		90.0 %																
9	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプライチェーン支援事業	環境イノベーション支援課	市内企業に対し、脱炭素経営を促すため、実際の成功事例の紹介などを行うセミナーを実施する。また、市内企業の環境に配慮した製品や技術、サービスから「北九州エコプレミアム」を選定し、広くPRすることで、市内環境関連産業の活性化を推進する。	北九州エコプレミアム選定件数（単年度）	目標		5 件	累計240件（R6年度）	—	9,654	8,204	5,825	順調	北九州エコプレミアムについて、単年度としては目標を下回っているものの、中期目標の累計240件に向かって、選定件数は着実に増加している。 また、エコタウン事業の投資額については目標を上回っている。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。	順調	【課題】 北九州エコプレミアムについては、効果的なPR及び企業ニーズに沿った制度にするため、令和2年度より選定要領を改定し、申請製品及びサービスをSDGsの視点もふまえて専門家に評価してもらうこととした。また、市が、企業の広報支援等を行うことで、認定企業のブランド力やイメージを向上させ、多様な人材の確保や新たな販路拡大に繋がる効果的なPRが必要である。		
						実績	9件 累計190件（H26年度）	4 件											
						達成率		80.0 %											
					エコタウン事業による投資額（単年度）	目標		7 億円	7億円（毎年度）										
						実績	9億円（H26年度）	12 億円											
						達成率		171.4 %											

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号 ・ 施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度 決算額 （千円）	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度			R4年度								中期 目標
V-1- (4)-② 再生可能エネルギー・ 基幹エネルギーの 創出拠点の形成	10	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	北九州市風力 発電人材育成 事業	再生 可能 エネルギー 導入 推進課	風力発電関連産業の総合拠点として、その機能を十分に発揮するには、人材の「育成」と「確保」が必要である。 このため、「北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、市内外の学生等の関心を高め育成を図るとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を通じた産学官の連携による人材の確保を目指す。	人材育成に関わる 関連企業、教育機関 を含めた会議等の 実施（累計）	目標	9 回	24 回	54回 (R3～R6 年度)	3,049	45,000	32,737	8,150	大変 順調	「人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施数」の実績が目標を大きく上回ったため、「大変順調」と判断。	順調	【評価理由】 風力発電人材育成事業では、成果目標である関連団体との会議実績について、目標を大幅に上回ることができた。 また、水素プロジェクト創出事業については、水素社会の実現に向け、水素ビジネスに乗り出す企業が、新たな技術開発の実証フィールドとして活用しており、事業可能性実施調査も予定どおり実施したことから、「順調」と判断。  【課題】 風力発電人材育成事業については、洋上風力発電に対する学校の先生・生徒の認知度が低く、また、学校の先生が極めて多忙、かつ風力以外の企業からの求人も多いこともあり、風力関連企業との個別協議の時間を確保することが極めて難しい。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一部の企業見学会を見送るなど、企業を知る機会が十分ではなかったことから、学生の来訪者数が増加する手法を工夫する必要がある。 水素プロジェクト創出事業については、福岡県水素拠点化推進協議会において、国の支援獲得を目指し、響灘地区を中心とした水素拠点形成計画を具体化していく。	風力発電人材育成事業については、令和4年度から開始した「北九州市洋上風力キャンプ」に引き続き取り組む。 また、人材確保の観点から、令和5年度に規模を拡大した「北九州市風力発電人材育成連絡会」における個別協議の実施に向けて、引き続き直接の対話を試みるが、必要に応じてオンライン会議や動画等を組み合わせていく。
							実績	21 回	39 回										
	11	⑦ ⑨ ⑬	北九州水素プロジェクト創出事業	グリーン成長推進課	2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、水素利活用を促進する「水素供給・利活用拠点都市」の形成を目指し、事業可能性調査や技術開発に対する助成を行うとともに、市内・県内の水素関連技術を保有する企業の調査及びマッチング支援を行うことで、水素関連プロジェクトの早期創出を目指す。	北九州水素タウン来訪者数（単年度）	目標	500 人	500人 (R3年度 まで毎 年度)	10,705	17,500	4,200	10,150	順調	関連産業の振興を目指し、水素センサーの開発の実証等、実証・PR拠点化推進に向けた取組を実施し、企業訪問回数が201回と目標（50回）を大きく上回った。また、事業可能性実施調査も予定どおり実施したため、「順調」と判断。	順調	水素プロジェクト創出事業については、水素の実証事業だけでなく、引き続き市内製造業の脱炭素化、競争力強化のため、水素利活用と供給体制の構築が必要である。		
事業可能性調査実施件数	実績	96 人	達成率	19.2 %	2 件	2 件 (毎年度)	100.0 %												

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)						
V-I-(4)-③ 安定・安価で賢いエネルギー網の構築	12	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑬	北九州市風力発電人材育成事業	再生可能エネルギー導入推進課	風力発電関連産業の総合拠点として、その機能を十分に発揮するには、人材の「育成」と「確保」が必要である。このため、「北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、市内外の学生等の関心を高め育成を図るとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を通じた産学官の連携による人材の確保を目指す。  人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施（累計）	—	目標	9回	24回	54回 (R3～R6年度)	3,049	45,000	32,737	8,150	大変順調	「人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施数」の実績が目標を大きく上回ったため、「大変順調」と判断。	順調	【評価理由】 風力発電人材育成事業では、成果目標である関連団体との会議実績について、目標を大幅に上回ることができたことから、「順調」と判断。  【課題】 風力発電人材育成事業については、洋上風力発電に対する学校の先生・生徒の認知度が低く、また、学校の先生が極めて多忙、かつ風力以外の企業からの求人も多いこともあり、風力関連企業との個別協議の時間を確保することが極めて難しい。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一部の企業見学会を見送るなど、企業を知る機会が十分ではなかったことから、学生の来訪者数が増加する手法を工夫する必要がある。	令和4年度から開始した「北九州市洋上風力キャンプ」に引き続き取り組む。また、人材確保の観点から、令和5年度に規模を拡大した「北九州市風力発電人材育成連絡会」における個別協議の実施に向けて、引き続き直接の対話を試みるが、必要に応じてオンライン会議や動画等を組み合わせていく。
VI-I-(1)-① 市民の力で環境力を高める仕組みづくり	13	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支援事業	環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。  エコライフステージ参加者数（単年度）	142.4万人 (H24年度)	目標	150万人以上	150万人以上 (R5年度)	150万人以上 (R5年度)	12,606	12,207	11,690	9,475	順調	3年ぶりの対面によるイベントやオンラインイベントを開催したことにより、市内の環境活動を広く情報発信することが出来た。令和4年度のエコライフステージの行事数と参加者数のどちらも、令和3年度の実績を上回ったため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 3年ぶりの対面によるイベントやオンラインイベントを開催し、市内の環境活動を広く情報発信することが出来た。また、出展者同士の交流が生まれるなど、新たな市民環境力の向上につながっていることから、「順調」と判断。  【課題】 市民による環境活動をさらに広げるため、環境活動団体の支援に加え、WEB等を活用した取組の強化や、SNS等での情報発信を積極的に行う必要がある。	今後も持続可能な社会を目指して、これまで以上に企業、NPO等の協力を得ながら、市民環境力の向上のため、従来イベントだけでなくオンラインイベント等を活用し、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。また、市民にエコなライフスタイルを浸透させる効果的な事業のあり方を検討しつつ、引き続き経費削減についても最大限取り組む。

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性				
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 （千円）							予算額 （千円）	決算額 （千円）		
VI-1-(1)-② 地域コミュニティ活動の支援	14	12	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量	50.1kg (H21年度)	目標	単年度目標設定なし		第2期循環社会計画に準拠												
							実績	30.4	kg														
							達成率	—															
古紙回収に取り組みまちづくり協議会数	132団体 (H26年度)	目標	137	団体	137	団体	全137団体の参加 (毎年度)	147,183	208,944	135,349	14,150	順調	近年、古紙・古着の集団資源回収量は若干減少気味であるが、古紙については紙の使用量の減少も影響していると考えられる。まちづくり協議会の参加率は100%を維持しており、地域の活動は継続されていることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 古紙・古着の集団資源回収量は若干減少気味であるが、古紙については全国的に紙の使用量が減少している影響を考慮する必要がある。まちづくり協議会の参加率は100%を達成していることから、「順調」と判断。  【課題】 集団資源回収について更なる周知が必要である。	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。							
		実績	137	団体	137	団体																	
		達成率	100.0	%	100.0	%																	
一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標	単年度目標設定なし		単年度目標設定なし		30%以上 (R7年度)																
		実績	27.9	%	26.6	%																	
		達成率	—		—																		
VI-1-(1)-③ 地域の環境特性を活かした取組の推進	15	12	地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標	単年度目標設定なし		単年度目標設定なし		440g以下 (R7年度)	8,238	9,405	9,715	4,575	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は、減少傾向である。また、3R活動の実施率も高い水準を維持しているなど、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられる。以上を総合して、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 成果指標である市民1人一日あたりの家庭ごみ量は、減少傾向である。地域の特性を活かした自主的な環境活動の拡大により、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 事業参加団体の増減による実施体制の検討が必要である。	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。	
							実績	462	g	452	g												
							達成率	—		—													
						市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標	86.9	%	86.9	%	86.9% (毎年度)										
								実績	85.7	%	87.6	%											
								達成率	98.6	%	100.8	%											

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)						
VI-1- (2)-① 交流の 場づくりと連 携の強化	16	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支 援事業	環境学 習課	市民環境力の持 続的発展を目指 し、環境モデル都 市を推進する活動 への支援や、市 民・NPO、事業者な ど地域社会を構成 する各主体が、情 報を共有し、新た な取組を生み出 し、発信・啓発す る北九州エコライ フステージ事業な どを行う。	エコライフステー ジ参加者数（単年 度）	142.4万 人 (H24年 度)	目標	150万人 以上	150万人 以上	150万人 以上 (R5年 度)	12,606	12,207	11,690	9,475	順調	3年ぶりの対面によるイベ ントやオンラインイベントを 開催したことにより、市内の 環境活動を広く情報発信す ることが出来た。令和4年度の エコライフステージの行事数 と参加者数のどちらも、令和 3年度の実績を上回ったた め、「順調」と判断。	【評価理由】 エコライフステージは、3 年ぶりの対面によるイベント やオンラインイベントを開催 し、市内の環境活動を広く情 報発信することができ、出展 者同士の交流が生まれるな ど、新たな市民環境力の向上 につながっている。 また、環境ミュージアムで は、様々なイベントを開催す るとともに、環境学習サポ ーターによる出張ミュージアム の実施や講座、オンラインで の講座、館内ツアーに取り組 むなど、環境人材の育成・活 用に努めており、好評を得て いる。こうした取組の成果も あり、環境ミュージアム利用 者は回復傾向にある。 以上を踏まえ、「順調」と 判断。	今後も市民環境力の向上、 持続可能な社会の実現を目指 して、これまで以上に企業、 NPO等の協力を得ながら、オ ンラインイベントも含め、市 内外の幅広い世代にエコなラ イフスタイルを浸透させる効 果的な事業のあり方を検討、 実施する。また、引き続き経 費削減についても最大限に取り 組む。 また、環境ミュージアム及 び北九州エコハウス維持管理 業務では、地域における環境 リーダーの育成にむけて、環 境ミュージアムスタッフ・環 境学習サポーターや関係団体 及び近隣施設等との協働を進 めるなど、活動の更なる強化 を図るとともに、現存のコン テンツの充実を図り、引き続 きオンラインイベントや講座 等を開催する。
						実績	30 万人	90.9 万人	達成率	20.0 %									
	17	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージ アム及び北九 州エコハウス 維持管理業務	環境学 習課	北九州市の公害 克服の歴史を伝え るとともに、世界 の環境首都を目指 して市民の環境力 を高めるための環 境学習・環境活 動・環境情報の総 合拠点である「環 境ミュージアム」 及び家庭での省エ ネ型のライフスタ イルを提案する 「北九州エコハウ ス」等の管理運営 及び様々なイベ ント、企画等によ り、環境学習や環 境活動の場を提供 するもの。	環境学習サポー ターによる出張 ミュージアム回数	80回 (H26年 度)	目標	360 回	360 回	360回 (R5年 度)	75,031	77,087	75,383	9,225	順調	環境学習サポーターによる 出張ミュージアムの回数が令 和3年度に比べ増加した。 また、環境ミュージアム開 館20周年イベントや、長期休 暇を利用したイベントの開催 により、利用者数の回復傾向 がみられたため、「順調」と 判断。	【課題】 新たなイベント開催方法な どの検討や、市民による環境 活動をさらに広げるため、環 境活動団体の支援に加え、 WEB等を活用した取組の強化 や、SNS等での情報発信を積 極的に行う必要がある。 また、環境人材の更なる育 成を図るため、環境ミュージ アムスタッフ・環境学習サ ポーターや関係団体及び近隣 施設等との協働を進め、活動 の強化を図る。	
						実績	249 回	291 回	達成率	69.2 %									80.8 %
					環境ミュージアム 利用者数（単年 度）	134,124 人 (H26年 度)	目標	130,000 人	130,000 人	130,000 人 (R5年 度)									
					実績	42,873 人	75,475 人	達成率	33.0 %										58.1 %



令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						人件費 (目安) 金額 (千円)
VI-1-(2)-② あらゆる主体 による環境政策への 参加の推進	18	④ ⑰	ESD活動支援 事業	環境 学習 課	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。 具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R5年度)	19,174	20,179	19,619	16,950	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや会議が対面では実施できないこともあったが、オンラインでの会議や講演会を積極的に進めるなど、事業の円滑な実施に取り組み、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につなげたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや対面での会議が実施できないこともあったが、オンラインを活用して、事業の円滑な実施に取り組み、多様な主体による環境配慮行動を促したことから、「順調」と判断。  【課題】 令和5年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を継続しつつ、引き続き様々なステークホルダーとの協働により、環境配慮行動を促すことが必要である。	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、様々なステークホルダーとの協働、組織運営の強化などを通じて、ESD活動を推進する。 環境人材育成事業については、引き続き環境首都検定受検者増加に向けて、企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行い、市民全体が環境に更なる関心を持つよう取組を進める。
							実績	80.2 %	83.4 %										
19	④	環境人財育成 事業	環境 学習 課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標	5,500 人	5,500 人	5,500人 (R5年度)	12,748	13,567	11,762	9,975	順調	受検啓発については、会場等の閉館等があり、実施回数が8回と伸びなかったものの、令和3年度に引き続き、全受検区分でWeb受検を実施したことにより、受検者数の目標値を達成したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクターを活用した地道な活動が老若男女問わず功を奏している。環境情報の収集・整備・提供に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 環境マスコットキャラクターの認知度の更なる向上及び市民の環境活動への意識向上のため、SNS等を活用した効果的な活動・周知が必要である。	環境マスコットキャラクターを活用した更なるPR活動や北九州市内の他のマスコットキャラクターとのコラボ等の取組を推進していく。
							実績	5,502 人	5,751 人										
VI-1-(2)-③ 環境情報の収集・整備・提供	20	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境施策広報 事業	環境 学習 課	世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図る。	アンケート調査における環境マスコットキャラクターの認知度	目標	65.0 %	65.0 %	65.0% (R5年度)	9,089	9,590	9,512	8,700	順調	令和3年度と比べ、イベント参加回数、アンケート調査における環境マスコットキャラクターの認知度が、ともに増加している。また、認知度について目標率を達成しており、施策に対して、一定の効果があったものと考えられるため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクターを活用した地道な活動が老若男女問わず功を奏している。環境情報の収集・整備・提供に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 環境マスコットキャラクターの認知度の更なる向上及び市民の環境活動への意識向上のため、SNS等を活用した効果的な活動・周知が必要である。	環境マスコットキャラクターを活用した更なるPR活動や北九州市内の他のマスコットキャラクターとのコラボ等の取組を推進していく。
							実績	66.5 %	67.7 %										

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
VI-2- (2)-① 市民・ 企業な どによ るCO2 削減	21	⑦ ⑩	北九州市役所 環境・エネ ルギープ ロジェク ト推進事 業	再生 可能 エネ ルギ ー導 入推 進課	環境モデル都市 としての市役所 の率先垂範を実 践し、省エネ法 及び温対法の規 制へ対応するた め、平成23年度 から実施してい る本事業により 市役所の環境・ エネルギー対策 を行い、更なる 省エネ・節電を 推進する。	市有施設のエネ ルギー消費原単 位の改善	H22年度 総エネルギー 使用量実績 (原油換算 89,599k l)	目標 79,743 kl 実績 78,021 kl 達成率 97.8 %	R12年度 までにH22年 度比20%減 (エネルギー 使用量原油 換算71,679k l)	7,480	7,880	3,771	5,575	順調	響灘バイオト ープにおい て、リユース 太陽光パネ ルを活用し た太陽光発 電システム の第三者所 有方式での 導入の実証 及び性能評 価を行った。 また、市有 施設（消防 署）におい て、日射負 荷を軽減す るための設 備導入工事 を行うなど 、省エネ化 の取組を推 進したこと から「順調 」と判断。	順調	【評価理由】 脱炭素化推進 事業につい ては、省エ ネ・再エネ 設備導入へ 意欲がある 企業に向け て、さらな るPRを行 い、積極的 な働きかけ を行う。 再エネ100 %北九州モ デル推進事 業は、第三 者所有方式 による太陽 光発電設備 の導入につ いて、各施 設の事業性 の判断を行 うとともに 、スケール メリットが 出る形で対 象施設を選 定する。 地球温暖化 対策推進事 業及び「脱 炭素型ライ フスタイル 」転換推進 事業につい ては、引き 続き、市民 に対し、省 エネ・節電 、温暖化対 策の取組に ついて働き かけを行う。	脱炭素化推進 事業につい ては、省エ ネ・再エネ 設備導入へ 意欲がある 企業に向け て、さらな るPRを行 い、積極的 な働きかけ を行う。 再エネ100 %北九州モ デル推進事 業は、第三 者所有方式 による太陽 光発電設備 の導入につ いて、各施 設の事業性 の判断を行 うとともに 、スケール メリットが 出る形で対 象施設を選 定する。 地球温暖化 対策推進事 業及び「脱 炭素型ライ フスタイル 」転換推進 事業につい ては、引き 続き、市民 に対し、省 エネ・節電 、温暖化対 策の取組に ついて働き かけを行う。	
	22	⑦ ⑧ ⑨ ⑩	中小企業 の競争力 を生み出 す脱炭素 化推進事 業	再生 可能 エネ ルギ ー導 入推 進課	脱炭素社会の 実現に向け、 市内中小企 業へ脱炭素 化を促し、 自家消費 型太陽光発 電設備、蓄 電池、EV 及び充放電 器の導入を 支援する。 また、省エ ネ実践行動 の更なる推 進、最先端 の省エネ機 器の導入支 援を行う。 当事業によ り環境に配 慮しつつ中 小企業の競 争力を高め る。	省エネ投資額 (千円)  ※中期目標 改訂(R5年 度目標設定 時)	336,998 千円 (H28年 度)	目標 105,000 千 円 実績 50,338 千 円 達成率 47.9 %	累計 1,390,000 千円 (H28~ R5年度)	23,698	42,000	249,393	4,825	大変 順調	市内中小企 業の太陽光 発電設備や 省エネ機器 の導入を支 援し、省エ ネ投資額、 補助金活用 件数ともに 目標値を大 きく上った ため、「大変 順調」と判 断。 なお、本事 業については 、令和4年 度6月補正 予算におい て、事業主 旨が同じ「 中小企業の 省エネを促 す緊急経済 対策事業」 が承認され 、予算額が 増加したこ とに伴い、 成果指標の 実績値が目 標値を大幅 に上ったも の。	【課題】 「脱炭素化 推進事業補 助金」は、 事業者のニ ーズを把握 し、より利 用しやすく 、かつ、再 エネ電力の 導入を効果 的に推進で きるよう制 度の充実を 図っていく 必要がある 。 更なる温室 効果ガス排 出量削減に 向け、市民 一人ひと りの自発的 な行動を促 す普及啓発 が必要不可欠 である。			
						補助金活用 件数(件)  ※中期目標 改訂(R5年 度目標設定 時)	61件 (H28年 度)	目標 14 件 実績 8 件 達成率 57.1 %	累計 240件 (H28~ R5年度)										

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
	23	⑦ ⑪ ⑫ ⑮ ⑰	地球温暖化対策推進事業	グリーン成長推進課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	温室効果ガス排出量の削減（万t） ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	1,859万t （2013年度）	目標 単年度目標設定なし	実績 —	単年度目標設定なし	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	9,851	7,846	4,038	3,650	順調	温室効果ガス排出量については、毎年減少傾向を維持している。 また、出前講演の参加者数（累計）が目標（5,250人）を達成するなど、市民に対し、年間を通じた啓発事業を実施した。 以上を総合して、「順調」と判断。		
	24	⑦ ⑪ ⑫ ⑮ ⑰	「脱炭素ライフスタイル」転換推進事業	グリーン成長推進課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に基づき、脱炭素社会の実現に向けて市民・企業向けの情報プラットフォームを整備し、「脱炭素社会」のイメージと方法・効果の共有を図るとともに、取組事例や効果を可視化し、家庭・企業の脱炭素型ライフスタイルへの転換を進めるもの。	温室効果ガス排出量の削減（万t） ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	1,859万t （2013年度）	目標 単年度目標設定なし	実績 —	単年度目標設定なし	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	6,612	3,500	532	8,150	順調	温室効果ガス排出量については、毎年減少傾向を維持している。 また、ポータルサイトを通じて情報発信を強化した結果、アクセス数（累計）が目標（15,000件）を達成した。 以上を総合して、「順調」と判断。		
	25	⑦ ⑧ ⑨ ⑮	脱炭素社会の実現に向けた再エネ100%北九州モデル推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	脱炭素社会の実現に向けて、 ・公共施設群及びエコタウンの再エネ100%電力化 ・EVを活用した自律型エネルギー実証 ・北九州都市圏域への再エネ普及促進 ・バイオマスエネルギー等活用推進 ・市有施設のZEB化に取り組む。	PV・風力等再エネ導入量（kW・累計）	0kW （R3年度）	目標 512,980 kW	実績 451,417 kW	756,946 kW （R12年度）	756,946 kW （R12年度）	—	1,052,000	14,442	18,950	順調	国の交付金を活用した再エネ導入事業について、半導体不足などの影響もあり、令和5年度に完工することとなったが、設備の導入は進んでいる。また、再エネの導入量は、目標の8割以上を達成したため、「順調」と判断。		
					C02削減量（t）	0t （R3年度）	目標 496,000 t	実績 349,143 t	70.4 %	累計 3,113,743tC02 （R4～R12年度）									

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
VI-2- (2)-② 低炭素 社会に 貢献す る技術 開発、 製品・ サービ ス提供 拠点の 形成	26	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境イノベ ーション促進事 業	環境イ ノベ ーシ ョ ン支 援課	大学との連携や エコプレミアム認 定品を切り口に、 学生のうちから環 境イノベーション に関係した企業や 業務に触れる機会 を作り、将来の環 境イノベーション を担う人材育成に 繋げていく。また、 今後の脱炭素化の 急激な社会情勢に 対応していくため にも、脱炭素経営 の認知度向上や意 識付けを行い、地 元企業の競争力強 化に繋げていく。	北九州エコプレ ミアム選定件数 （単年度）	目標		5 件	累計240 件 （R6年 度）	—	9,654	8,204	5,825	順調	北九州エコプレミアムにつ いて、単年度としては目標を 下回っているものの、中期目 標の累計240件に向かって、 選定件数は着実に増加してい る。 また、支援企業社数につい て、市内企業の支援として、 脱炭素サプライチェーン支援 事業を実施した結果、事業へ の応募が予定を僅かに下回っ たことにより、目標を達成す ることができなかったもの の、概ね予定していた企業数 を支援することができた。 エコタウン事業の投資額に ついては、目標を上回ってい る。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 北九州エコプレミアムにつ いて、単年度としては目標を 下回っているものの、中期目 標の累計240件に向かって、 選定件数を着実に増やしてい る。また、学生に環境イノ ベーションに関係した企業や 業務に触れてもらい、将来の 環境イノベーションを担う人 材育成に繋げる機会を設ける ことができた。 支援企業社数について、脱 炭素サプライチェーン支援事 業への応募が予定を僅かに下 回ったことにより、目標を達 成することができなかったもの の、エコタウン事業の投資 額については目標を上回って いる。 環境未来技術開発助成につ いて、累計事業化率は36%と 他の研究開発助成に比べ高い 数値であり、低炭素社会に貢 献する技術開発、製品・サー ビス提供拠点の形成に寄与し ていると考えられる。 以上から、施策として総合 的に勘案し、「順調」と判 断。	市内企業の実証研究への効 果的な助成や、脱炭素化に取り 組む企業への支援などを通 じて、環境イノベーションに つながる施策を展開してい く。
							実績	9件 累計190 件 （H26年 度）											
達成率		80.0 %																	
エコタウン事業に よる投資額（単年 度）	目標		7 億円	7億円 （毎年 度）		—	9,654	8,204	5,825	順調	北九州エコプレミアムにつ いて、単年度としては目標を 下回っているものの、中期目 標の累計240件に向かって、 選定件数は着実に増加してい る。 また、エコタウン事業の投 資額については目標を上回っ ている。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「順調」と判 断。	順調	【課題】 北九州エコプレミアムにつ いては、効果的なPR及び企業 ニーズに沿った制度にするた め、令和2年度より選定要領 を改定し、申請製品及びサー ビスをSDGsの視点もふまえて 専門家に評価してもらうこと とした。また、市が行う企業 の広報支援については、認定 企業のブランドカやイメージ を向上させ、多様な人材の確 保や新たな販路拡大に繋げて いくことが必要である。 環境未来技術開発助成を通 じた次世代資源循環型産業拠 点形成は、「北九州市まち・ ひと・しごと創生総合戦略」 の一つであり、今後、更に市 内企業等への支援に注力して いく必要がある。						
	実績	9億円 （H26年 度）												12 億円					
	達成率		171.4 %																
支援企業社数 （累計）	目標		10 社	30社 （R4～ R6年 度）	—	9,654	8,204	5,825	順調	北九州エコプレミアムにつ いて、単年度としては目標を 下回っているものの、中期目 標の累計240件に向かって、 選定件数は着実に増加してい る。 また、エコタウン事業の投 資額については目標を上回っ ている。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「順調」と判 断。	順調	【課題】 北九州エコプレミアムにつ いては、効果的なPR及び企業 ニーズに沿った制度にするた め、令和2年度より選定要領 を改定し、申請製品及びサー ビスをSDGsの視点もふまえて 専門家に評価してもらうこと とした。また、市が行う企業 の広報支援については、認定 企業のブランドカやイメージ を向上させ、多様な人材の確 保や新たな販路拡大に繋げて いくことが必要である。 環境未来技術開発助成を通 じた次世代資源循環型産業拠 点形成は、「北九州市まち・ ひと・しごと創生総合戦略」 の一つであり、今後、更に市 内企業等への支援に注力して いく必要がある。							
	実績												9 社						
	達成率		90.0 %																
27	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプラ イチェーン支 援事業	環境イ ノベ ーシ ョ ン支 援課	市内企業に対 し、脱炭素経営を 促すため、実際の 成功事例の紹介な どを行うセミナー を実施する。また、 市内企業の環境 に配慮した製品 や技術、サービス から「北九州エコ プレミアム」を選定 し、広くPRするこ とで、市内環境関 連産業の活性化を 推進する。	北九州エコプレ ミアム選定件数 （単年度）	目標		5 件	累計240 件 （R6年 度）	—	9,654	8,204	5,825	順調	北九州エコプレミアムにつ いて、単年度としては目標を 下回っているものの、中期目 標の累計240件に向かって、 選定件数は着実に増加してい る。 また、エコタウン事業の投 資額については目標を上回っ ている。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「順調」と判 断。	順調	【課題】 北九州エコプレミアムにつ いては、効果的なPR及び企業 ニーズに沿った制度にするた め、令和2年度より選定要領 を改定し、申請製品及びサー ビスをSDGsの視点もふまえて 専門家に評価してもらうこと とした。また、市が行う企業 の広報支援については、認定 企業のブランドカやイメージ を向上させ、多様な人材の確 保や新たな販路拡大に繋げて いくことが必要である。 環境未来技術開発助成を通 じた次世代資源循環型産業拠 点形成は、「北九州市まち・ ひと・しごと創生総合戦略」 の一つであり、今後、更に市 内企業等への支援に注力して いく必要がある。		
						実績	9件 累計190 件 （H26年 度）											4 件	
達成率		80.0 %																	
エコタウン事業に よる投資額（単年 度）	目標		7 億円		7億円 （毎年 度）	—	9,654	8,204	5,825	順調	北九州エコプレミアムにつ いて、単年度としては目標を 下回っているものの、中期目 標の累計240件に向かって、 選定件数は着実に増加してい る。 また、エコタウン事業の投 資額については目標を上回っ ている。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「順調」と判 断。	順調	【課題】 北九州エコプレミアムにつ いては、効果的なPR及び企業 ニーズに沿った制度にするた め、令和2年度より選定要領 を改定し、申請製品及びサー ビスをSDGsの視点もふまえて 専門家に評価してもらうこと とした。また、市が行う企業 の広報支援については、認定 企業のブランドカやイメージ を向上させ、多様な人材の確 保や新たな販路拡大に繋げて いくことが必要である。 環境未来技術開発助成を通 じた次世代資源循環型産業拠 点形成は、「北九州市まち・ ひと・しごと創生総合戦略」 の一つであり、今後、更に市 内企業等への支援に注力して いく必要がある。						
	実績	9億円 （H26年 度）												12 億円					
	達成率		171.4 %																

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)
	28	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術 開発助成事業	環境 イノ ベー ション 支援 課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	27件 (H26年度)	目標 38 件	実績 40 件	39 件	41 件	40件 (R5年度まで)	18,315	50,000	38,310	4,595	順調	令和4年度までの助成件数115件（累計）のうち、事業化した件数は41件であり、事業化率は36%であった。（一般的な研究開発助成の事業化率は10%程度） また、採択状況についても、着実に件数を伸ばしていることから、「順調」と判断。		
VI-3-(1)-① 市民環境力による3R活動の推進	29	⑩	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量	50.1kg (H21年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 30.4 kg								順調	【評価理由】 市民の環境意識を高めるため、積極的に啓発を行うなど、適正な廃棄物の処理に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 一般廃棄物のリサイクル率については令和3年度と同水準で推移しており、目標達成に向けて、ごみの分別の徹底や事業系ごみ対策などに取り組む必要がある。	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向け、ごみの減量化・資源化に資する取組を推進していく。	
					古紙回収に取り組みまちづくり協議会数	132団体 (H26年度)	目標 137 団体	実績 137 団体	137 団体	137 団体	137 団体	全137団体の参加（毎年度）	147,183	208,944	135,349	14,150	順調	近年、古紙・古着の集団資源回収量は若干減少気味であるが、古紙については紙の使用量の減少も影響していると考えられる。 まちづくり協議会の参加率は100%を維持しており、地域の活動は継続されていることから、「順調」と判断。		
					一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 27.9 %	26.6 %	30%以上 (R7年度)										

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)						
30	19		地域特性型 (メニュー選 択方式) 市民 環境活動推進 事業	循環 社会 推進 課	地域団体等が自 主的に活動する事 業（剪定枝リサイ クル等）を支援す ることにより、地 域における自主的 な環境活動の拡大 と地域コミュニ ティ活動の活性化 を図る。	市民1人一日あた りの家庭ごみ量	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以 下 (R7年 度)	8,238	9,405	9,715	4,575	順調	市民1人一日あたりの家庭 ごみ量は、減少傾向である。 また、3R活動の実施率も高 い水準を維持しているなど、 環境意識の醸成及び地域コ ミュニティの活性化につな がっていると考えられる。 以上を総合して、「順調」 と判断。			
							実績	462 g	452 g										
							達成率	—	—										
						市民アンケート調 査における3R活動 の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年 度)									
							実績	85.7 %	87.6 %										
							達成率	98.6 %	100.8 %										
31	19		広げよう食品 ロス・生ごみ 削減の環づく り事業	循環 社会 推進 課	食品ロス削減の 取組「残しま宣 言」運動の普及・ 啓発や、生ごみリ サイクル講座等の 実施によって、生 ごみの減量化・資 源化を推進する。	市民1人一日あた りの家庭ごみ量	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以 下 (R7年 度)	7,047	7,800	6,354	8,825	順調	食品ロス削減の取組「残し ま宣言」運動を継続して実施 し、食品ロス削減の取組実施 率は、中期目標の概ね8割程 度達成しており、市民の環境 意識向上や、生ごみの資源 化・減量化の促進に貢献して いると考えられることから、 「順調」と判断。			
							実績	462 g	452 g										
							達成率	—	—										
						市民アンケート調 査における3R活動 の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年 度)									
							実績	85.7 %	87.6 %										
							達成率	98.6 %	100.8 %										
						市民アンケート調 査における食品ロ ス削減の取組実施 率	目標	58.3%	単年度目標 設定なし	80%以上 (R12年 度)									
							実績	61.6 %	61.6 %										
							達成率	—	—										

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)							
32	12		3R活動推進事業	循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進及び3R活動を行う団体の表彰等により、3R活動の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 27.9 %	単年度目標 設定なし	26.6 %	30%以上 (R7年度)	1,188	609	1,111	7,825	順調	事業所へのごみ減量化に関する講習会の実施や、ごみ分別・減量化意識を高める取組を行った。 3R活動実施率は、令和3年度に比べ上昇しており、3R意識の向上が進んでいると考えられるため、「順調」と判断。		
						達成率	—	—												
33	9 12 13 14 17		北九州市プラスチックスマート推進事業	循環社会推進課	国の動向と歩調を合わせながら、これまでの取組に加え、更なるプラスチックごみの資源循環に向けた施策を推進する。	プラスチック製容器包装の分別協力率	44.4% (R1年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 45.6 %	単年度目標 設定なし	44.5 %	60%以上 (R12年度)	30,332	38,000	23,513	13,075	順調	令和4年4月施行のプラスチック資源化促進法への対応に向けて、2度目のプラスチック一括回収の実証事業を実施し、市内全域で事業開始に向けて、方針決定などに取り組んだ。 また、プラスチックごみ対策専用ウェブサイトのレイアウト改善や、講演・イベントでの市民啓発などを強化した。 以上を総合して、「順調」と判断。		
						達成率	—	—												
34	11 12		第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画推進事業	循環社会推進課	本市では、第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画（本市の一般廃棄物処理計画）を策定し、ごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っている。 本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行う。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 462 g	単年度目標 設定なし	452 g	440g以下 (R7年度)	742	1,049	945	2,325	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は減少傾向であることから、「順調」と判断。	【評価理由】 第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画の計画目標達成に向け、啓発、市民周知を行い、循環型社会形成に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 目標達成に向け、ごみの処理や資源化に関する一層の啓発、市民周知を行い、併せて各事業の進捗状況を把握することが重要である。	引き続き、ごみ処理に関する分析を行い、計画目標達成に向け、より効果的・効率的な施策や啓発・広報を行っていく。
						達成率	—	—												
VI-3-(1)-2 適正な廃棄物の処理	34		第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画推進事業	循環社会推進課	本市では、第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画（本市の一般廃棄物処理計画）を策定し、ごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っている。 本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行う。	一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 27.9 %	単年度目標 設定なし	26.6 %	30%以上 (R7年度)	742	1,049	945	2,325	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は減少傾向であることから、「順調」と判断。	【評価理由】 第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画の計画目標達成に向け、啓発、市民周知を行い、循環型社会形成に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 目標達成に向け、ごみの処理や資源化に関する一層の啓発、市民周知を行い、併せて各事業の進捗状況を把握することが重要である。	引き続き、ごみ処理に関する分析を行い、計画目標達成に向け、より効果的・効率的な施策や啓発・広報を行っていく。
						達成率	—	—												

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性							
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)	決算額 (千円)					
VI-3-(1)-③ 産業廃棄物排出量の減量化	35	③ ⑥ ⑪ ⑫	産業廃棄物処理推進事業	産業廃棄物対策課	産業廃棄物の適正処理・3Rを推進するため、優れた排出事業者・処理業者への認定やインセンティブ付与、排出・処理動向や将来見通しの分析・公表、産業廃棄物3R・適正処理講習会等を活用した適正処理・3R情報の普及啓発を実施する。	優良産廃処理業者の認定件数（単年度）	目標	2	件	2	件	2件 (R1年度以降毎年度)	10,957	14,871	9,035	615	大変 順調	令和3年度から引き続き、会場及びYoutube配信による講習会を実施（受講者数565名）し、産業廃棄物の適正処理、3Rの推進について啓発を行った。また、優良事業者については6社を認定し、優良産廃処理業者及び排出事業者の育成に寄与したことから、「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 講習会や市内産業廃棄物動向の分析を通して適正処理を促進し、優良事業者を6社認定するなど、産業廃棄物排出量の減量化が進んでいると考えられるため、「大変順調」と判断。  【課題】 引き続き産廃処理業者及び排出事業者の育成を進め、業界全体において、一層の適正処理の促進に取り組む必要がある。	排出事業者に対しては、産業廃棄物の発生抑制、リサイクルによる減量化について、産廃処理業者に対しては、適正処理、減量化の推進について、普及啓発を行う。また、産業廃棄物処理業の持続可能な発展を図るため、雇用創出や人材育成等の取組を進めていく。					
							実績	3	件	5	件															
							達成率	150.0	%	250.0	%															
						優良排出事業者の認定件数（単年度）	目標	2	件	2	件	2件 (毎年度)	6,348	22,166	7,051	4,575						大変 順調	エコタウン視察者数について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、目標を達成することができなかったものの、投資額については目標を上回っていることから、「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 エコタウン視察者数について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、目標を達成することができなかったものの、投資額については目標を上回っていることから、「大変順調」と判断。  【課題】 環境未来技術開発助成や国等の予算を活用しながら、次世代資源リサイクル拠点の形成を図っていく必要がある。	北九州エコタウン全体の更なる発展を目指し、引き続き事業を推進する。
							実績	1	件	1	件															
							達成率	50.0	%	50.0	%															
エコタウン事業による投資額（単年度）	目標	7	億円	7	億円	7億円 (毎年度)	6,348	22,166	7,051	4,575	大変 順調	エコタウン視察者数について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、目標を達成することができなかったものの、投資額については目標を上回っていることから、「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 エコタウン視察者数について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、目標を達成することができなかったものの、投資額については目標を上回っていることから、「大変順調」と判断。  【課題】 環境未来技術開発助成や国等の予算を活用しながら、次世代資源リサイクル拠点の形成を図っていく必要がある。	北九州エコタウン全体の更なる発展を目指し、引き続き事業を推進する。											
	実績	15	億円	12	億円																					
	達成率	214.3	%	171.4	%																					
エコタウン視察者数（単年度）	目標	100,000	人	100,000	人	10万人 (毎年度)	6,348	22,166	7,051	4,575						大変 順調	エコタウン視察者数について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、目標を達成することができなかったものの、投資額については目標を上回っていることから、「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 エコタウン視察者数について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、目標を達成することができなかったものの、投資額については目標を上回っていることから、「大変順調」と判断。  【課題】 環境未来技術開発助成や国等の予算を活用しながら、次世代資源リサイクル拠点の形成を図っていく必要がある。	北九州エコタウン全体の更なる発展を目指し、引き続き事業を推進する。						
	実績	40,032	人	81,650	人																					
	達成率	40.0	%	81.7	%																					
VI-3-(2)-② 環境分野における技術開発の促進	37	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術開発助成事業	環境イノベーション支援課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	目標	38	件	39	件	40件 (R5年度まで)	18,315	50,000	38,310						4,595	順調	令和4年度までの助成件数115件（累計）のうち、事業化した件数は41件であり、事業化率は36%であった。（一般的な研究開発助成の事業化率は10%程度） また、採択状況についても、着実に件数を伸ばしており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 累計事業化率は36%と他の研究開発助成に比べ高い数値であり、低炭素社会に貢献する技術開発、製品・サービス提供拠点の形成に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等への支援に注力していく必要がある。	産業界においては、依然として研究開発意欲が高い。旺盛な研究開発ニーズに対しても、国等の研究開発予算の活用を進める。
							実績	40	件	41	件															
							達成率	105.3	%	105.1	%															



令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)						
VI-3- (3)-③ 環境に 配慮す る消費 者(グ リー ン コ ン シ ュ ー マ ー) 活 動 の 推 進	38	⑩	3R活動推進事業	循環 社会 推 進 課	事業所に対する 一般廃棄物の減量 化等の推進及び3R 活動を行う団体の 表彰等により、3R 活動の推進を図 る。	一般廃棄物のリサ イクル率	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	30%以上 (R7年 度)	1,188	609	1,111	7,825	順調	事業所へのごみ減量化に 関する講習会の実施や、ごみ分 別・減量化意識を高める取組 を行った。 3R活動実施率は、令和3年 度に比べ上昇しており、3R意 識の向上が進んでいると考え られるため、「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 事業所に対する講習会の実 施など、継続的に啓発を行 い、適正な廃棄物の処理に寄 与していると考えられるた め、「順調」と判断。  【課題】 一般廃棄物のリサイクル率 については令和3年度と同水 準で推移している。目標達成 に向けて、ごみの分別の徹底 や事業系ごみ対策などに取 組む必要がある。	第2期北九州市循環型社会 形成推進基本計画に基づき、 循環型社会の構築に向け、引 き続き取組を推進していく。
							実績	27.9 %	26.6 %										
							達成率	—	—										
						市民アンケート調 査における3R活動 の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年 度)									
							実績	85.7 %	87.6 %										
							達成率	98.6 %	100.8 %										
VI-4- (1)-① 多様な 自然環 境・生 物多様 性の保 全	39	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦 略推進事業	環境 監視 課	都市と自然との 共生「豊かな自然 の恵みを活用し 自然と共生するま ち」を基本理念 に、生物多様性を 保全し、将来にわ たって持続可能な 形で利用が可能な 都市づくりを目指 す。	環境首都100万本 植樹プロジェクト 推進（累計）	目標	904,000 本	937,000 本	累計 100万本 植樹 (R6年 度)	14,457	14,013	13,717	16,300	順調	自然ネットだより等を活用 し、自然環境保全活動の周知 を行った結果、新型コロナウ イルス感染症対策を実施しな がら、多くの人が活動に参加 した。 また、環境首都100万本植 樹プロジェクトによる植樹本 数（累計）について、目標に は届かなかったものの、プロ ジェクト全体としては順調に 推移している。 以上のことから、「順調」 と判断。	順調	【評価理由】 自然環境保全に関する取組 に対し、多くの人が活動に参 加した。また、環境首都100 万本植樹プロジェクトによる 緑化も進んでいる。多様な自 然環境・生物多様性の保全に 寄与していると考えられるた め、「順調」と判断。  【課題】 自然環境保全に関する活動 は、市民（特に団体）による 自主的な活動が不可欠である ため、市として継続的に支援 し、活性化を図る必要があ る。	自然環境保全に関する活動 は、市民とりわけ地域団体に よる自主的な活動が不可欠で ある。今後も継続して市民や ボランティア団体などと協働 し、自然環境保全活動を進め ていく。
							実績	750,223 本	784,926 本										
							達成率	83.0 %	83.8 %										
						自然環境保全活動 参加者数（イベ ント等の延べ参加 者数）	目標	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年 度)									
							実績	2,500 人	2,000 人										
							達成率	125.0 %	100.0 %										

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)							決算額 (千円)
VI-4-(1)-② 身近に自然を感じる都市づくり	40	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	目標	904,000 本	937,000 本	累計 100万本 植樹 (R6年度)	14,457	14,013	13,717	16,300	順調	自然ネットだより等を活用し、自然環境保全活動の周知を行った結果、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、多くの人が活動に参加した。 また、環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数（累計）について、目標には届かなかったものの、プロジェクト全体としては順調に推移している。 以上のことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自然環境保全に関する取組に対し、多くの人が活動に参加した。また、環境首都100万本植樹プロジェクトによる緑化も進んでいる。多様な自然環境・生物多様性の保全に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 自然環境保全に関する活動は、市民（特に団体）による自主的な活動が不可欠であるため、市として継続的に支援し活性化を図る必要がある。	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体による自主的な活動が不可欠である。今後も継続して市民やボランティア団体などと協働し、自然環境保全活動を進めていく。
							実績	750,223 本	784,926 本										
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	41	④ ⑮	響灘ビオトープ運営事業	環境監視課	絶滅危惧種をはじめ、500種類以上の動植物が生息する環境を保全しつつ、市民が見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設として響灘ビオトープの運営を行う。	響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数	目標	4,000 人	4,000 人	4,000人 (毎年度)	45,058	45,506	45,504	7,225	大変順調	イベントの実施やガイドツアーの開催など、市民の環境に対する意識を高めるきっかけとなる場を提供した。 響灘ビオトープは令和4年度に開園10周年を迎え、記念イベントを開催したことも影響し、ガイドツアーについて目標を大きく超える参加があったため、「大変順調」と判断。	順調	【評価理由】 響灘ビオトープでは、市民の環境に対する意識を高めるきっかけとなる場を提供し、一定の参加があった。 自然環境の保全と利活用促進においては、曽根干潟の自然環境調査（鳥類、底生動物）を行い、保全を行う上で必要な現況把握を行うとともに、エコツーリズムにより、市民に自然とふれあう機会を作り、豊かな自然環境の周知を行えたと考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 市民への周知方法については、体験型ツアーなど、よりわかりやすい形で自然の価値について理解を深められるよう内容の充実を図る必要がある。	響灘ビオトープにおいては、指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行うとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。 エコツーリズムにおいては、市民参加型の保全活動やツアー型講座など、魅力発信や地域振興につながる方法を検討する。 また、自然環境の状況を市民へ分かりやすい形で周知するため、環境調査等により曽根干潟などの自然環境の特徴や現況を把握・整理すること等によって、本市の生態系保全を戦略的に推進する。
							実績	2,704 人	5,498 人										
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	42	④ ⑥ ⑧ ⑭ ⑮	自然環境の保全と利活用促進事業	環境監視課	本市の代表的な自然環境拠点である平尾台、曽根干潟について、自然環境の現況を把握し、その戦略的な保全と生態系サービス（文化的価値や地元産品など）の利活用を通じて、観光などの地域振興を図るもの。	エコツーリズム参加人数（累計）	目標	500 人	500 人	累計 500人 (H30～ R4年度)	4,223	4,689	4,230	7,225	順調	曽根干潟の調査（鳥類調査、底生動物調査）を実施するとともに、平尾台や曽根干潟に関するツアー型講座などのエコツーリズムを実施した。 講座実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部のツアーで参加人数を縮小したものや、参加予定者にキャンセルが出た等の影響があったものの、概ね目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 響灘ビオトープでは、市民の環境に対する意識を高めるきっかけとなる場を提供し、一定の参加があった。 自然環境の保全と利活用促進においては、曽根干潟の自然環境調査（鳥類、底生動物）を行い、保全を行う上で必要な現況把握を行うとともに、エコツーリズムにより、市民に自然とふれあう機会を作り、豊かな自然環境の周知を行えたと考えられるため、「順調」と判断。  【課題】 市民への周知方法については、体験型ツアーなど、よりわかりやすい形で自然の価値について理解を深められるよう内容の充実を図る必要がある。	響灘ビオトープにおいては、指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行うとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。 エコツーリズムにおいては、市民参加型の保全活動やツアー型講座など、魅力発信や地域振興につながる方法を検討する。 また、自然環境の状況を市民へ分かりやすい形で周知するため、環境調査等により曽根干潟などの自然環境の特徴や現況を把握・整理すること等によって、本市の生態系保全を戦略的に推進する。
							実績	395 人	484 人										

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)						
VI-4-(2)-① 生活環境保全 対策の 推進	43	③ ⑥ ⑪ ⑫	不法投棄防止 事業	産業 廃棄 物対 策課	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処する。	産業廃棄物の不法投棄件数（単年度）	1,100件 (H26～ 30年度 の平均 値)	目標 1,100件 以下	実績 696 件	497 件	1,100件 以下 (R2年度 以降毎 年度)	15,588	15,979	10,192	11,650	大変 順調	廃棄物の不法投棄件数は、目標よりも大幅に少なく、令和3年度（696件）と比べても減少しているため、「大変順調」と判断。		
	44	③ ⑪ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	大気汚染防止法第22条の規定に基づく大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内に設置した常時監視測定局から成る測定網の整備・保守を行う。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努める。	大気環境の適正な把握	—	目標 —	実績 —	—	大気環境の適正な把握	16,978	13,474	13,473	6,075	順調	測定装置の更新計画に基づき、適切に測定環境を整備し、正確な測定を継続実施したため、「順調」と判断。	【評価理由】 監視パトロール等の実施や警察との連携による実行者の特定等により、近年は不法投棄事案も減少傾向にある。 また、計画的なモニタリング、正確な測定の継続実施により、生活環境の保全に繋がっていると考えられるため、「大変順調」と判断。	不法投棄防止に向け、監視パトロール等を継続するとともに、監視カメラの設置場所の見直しを行う。 また、継続して測定網の保守、計画的なモニタリングを行い、環境質の現状把握、維持・向上に努める。
	45	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境 監視 課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定（環境モニタリング）などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目標 —	実績 —	—	—	現状の環境を保全	32,288	47,947	46,340	8,325	順調	大気、水質、騒音、振動についてモニタリング計画を立てて測定を実施し、現状の環境の保全につながっていると考えられるため、「順調」と判断。	
					企業の法令順守の徹底	—	目標 改善命令 0件	実績 0 件	0 件	0 件	改善命令 0件 (毎年度)								

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)
VI-4-(2)-② 自動車 環境対 策の推 進	46	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対 策推進事業	グ リ ン 成 長 推 進 課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量（単年度）	200t (H26年度)	目標	前年度 (207t) 水準を維持	前年度水準を維持	前年度水準を維持（毎年度）	200	7,846	4,038	3,650	順調	ノーマイカーデー及びエコドラ北九州プロジェクト参加企業によるCO2削減は目標を達成したため、「順調」と判断。	順調	限られた予算の中で、効果的なPR手法を引き続き検討していく。 水素については、福岡県水素拠点化推進協議会において、国の支援獲得を目指し、響灘地区を中心とした水素拠点形成計画の具体化や水素の利用拡大に取り組んでいく。	
							実績	284 t	286 t	達成率										137.2 %
						エコドラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量（単年度）	505t (H26年度)	目標	前年度 (573t) 水準を維持	前年度水準を維持	前年度水準を維持（毎年度）									
								実績	883 t	937 t										
								達成率	154.1 %	106.1 %										
VI-4-(2)-③ 事業者 の公害 防止に 対する 環境管 理の強 化	47	⑦ ⑨ ⑬	水素エネル ギー社会構築 推進事業	グ リ ン 成 長 推 進 課	水素利用の拡大方策、水素エネルギービジネス実現に向けた仕組みづくりの検討を行う。 また、水素エネルギーの社会への浸透を目指し、「本市の先導的な取組」や「水素エネルギーが便利で身近なものであること」を市民に理解してもらえよう啓発を実施する。	水素ステーションの設置件数(累計)	1箇所 (H26年度)	目標	5 箇所	5 箇所	R6年度 までに5 箇所	3,121	8,650	5,448	4,650	順調	水素ステーションの設置については、コストやFCV（燃料電池自動車）普及台数等の様々な課題があり、全国的にも目標の8割程度にとどまっている。 一方で、水素エネルギーの社会的浸透については、視察対応やイベント出展を通じて、本市の先進的な取組を効果的にPRしたため、「順調」と判断。	順調	水素は既存燃料と比較して、供給コストがまだ高く、供給体制拡大に影響している。今後の社会実装に向けて、国が検討している価格差支援制度等を通して、供給コストの低減を図ることが必要である。	
							実績	3 箇所	3 箇所	達成率										60.0 %
								目標	300件 以下	300件 以下	300件 以下 (毎年度)	24,552	24,688	21,645	38,575	大変 順調	公害に関する苦情・要望件数は、目標より大幅に少ないこと、工場・事業場に対する立入検査や行政測定を計画的に実施していること、事業者向けのセミナー開催等により苦情の未然防止を着実に推進していること等から、「大変順調」と判断。	大変 順調	工場・事業場に対する立入検査、行政測定を実施するとともに、事業者の環境法令遵守状況を監視し、事業者の公害防止に対する環境管理の取組を促進しているため、「大変順調」と判断。  【課題】 苦情に対して、的確に対応するとともに、苦情の未然防止の取組を継続する必要がある。	
							実績	218 件	222 件	達成率										127.3 %

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度 決算額 （千円）	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標		決算額 （千円）	予算額 （千円）							決算額 （千円）	
VI-4-(2)-④ 越境大気汚染 対策の 推進	49	③ ⑪ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	大気汚染防止法 第22条の規定に基 づく大気汚染状況 の常時監視を行う ため、公害監視セ ンターと市内に設 置した常時監視測 定局から成る測定 網の整備・保守を 行う。常時監視結 果を本市の環境保 全の推進に役立 てるとともに、大 気環境の現状把握 に努める。	大気環境の適正な 把握	—	目標	—	—	—	—	16,978	13,474	13,473	6,075	順調	測定装置の更新計画に基づ き、適切に測定環境を整備 し、正確な測定を継続実施し たため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 大気環境の常時監視を行 い、結果を本市の環境保全の 推進に役立てているため、 「順調」と判断。  【課題】 大気汚染常時監視測定網の 整備・保守を今後も継続する 必要がある。	継続して測定網の保守、大 気環境の計画的なモニタリ ングを行い、現況把握、維持・ 向上に努める。
VII-1-(3)-① 環境国際 協力の 推進	50	⑫ ⑮	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	途上国技術者を 受け入れる国際研 修や経験豊かな市 内企業技術者等を 諸外国都市に派遣 し、現地で相手都 市も主体的に関 わった実践的な技 術指導を実施す る。 また、国内外の 関係機関と協働・ 連携した調査、情 報収集や発信を行 うとともに、各種 都市間ネットワー クを活用したプロ ジェクトを実施す る。更には、市内 企業や国際機関等 と密に連携して、 協力対象国や都市 の「緑の成長」に も資する環境国際 協力を目指す。	戦略的環境国際協 力事業の件数 （累計）	6件 （H26年 度）	目標	14 件	15 件	15件 （R5年 度）	0	3,000	1,566	6,650	順調	新型コロナウイルス感染症 による出入国に係る水際対策 の緩和により、現地派遣が再 開し、オンライン協議と対面 協議を活用して事業を進めた 結果、「環境国際協力推進事 業」の目標件数を達成したた め、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 環境国際協力推進事業及び アジアの環境人材育成拠点形 成事業について、上半期は新 型コロナウイルス感染症の影 響で現地渡航や来日研修が困 難であったが、下半期は水際 対策の緩和により、現地渡航 や来日研修が再開され、対面 での事業実施が可能となった ことにより、事業の推進につ ながった。上記を踏まえ、環 境国際協力を推進したことか ら、「順調」と判断。  【課題】 研修や受講者数の増加に向 け、各国、都市の状況やニー ズをタイムリーに把握するこ とが必要。	「アジアの環境人材育成拠 点形成事業」は、令和5年度 から、「アジア低炭素化セン ター推進事業」と統合し、 「環境国際推進事業」として 実施する。 引き続き、国や国際機関等 の補助事業を活用するととも に、KITAやJICAなど関係機関 との連携を図りながら環境国 際協力を推進する。	

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)
	51	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯	アジアの環境 人材育成拠点 形成事業	環境 国際 戦略 課	アジアの途上国 やその都市が自らの 力で環境改善の 取組を進めること ができるよう、 JICA等国の支援や 連携により、実践 的な国際環境研修 事業を推進してい く。 海外からの研修 員を受け入れるこ とにより、環境問 題解決の一助を担 うとともに、現地 の環境改善や海外 諸都市とのネット ワーク構築、ひい ては環境国際ビジ ネスへの事業展開 に繋げる。	アジアの環境人材 育成のための研修 員等の受講者数 (単年度)	1,209人 (H26年 度)	目標	460 人	460 人	460人 (毎年 度)	0	728	0	4,400	順調	新型コロナウイルス感染症 の影響により、上半期は全て の研修が遠隔での実施となっ た。下半期は来日研修を一部 再開し、現地見学や体験等、 研修内容の充実化を図ったた め、「順調」と判断。			
VII-2- (1)-① アジア 低炭素 化セン ターを 核とし た都市 インフ ラビジ ネスの 推進	52	⑯	アジア低炭素 化センター推 進事業	環境 国際 戦略 課	アジア低炭素化 センターを中核と して、環境に関す る多様な技術や社 会システム等を海 外に輸出すること で、地域経済の活 性化を推進する。	アジア地域での CO2排出量を削減	—	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	H25年度 の本市 CO2排出 量75% 分割減 (R12年 度)	12,331	24,549	15,152	92,375	順調	アジア地域でのCO2排出量 の削減に向けた各種プロジェ クト推進数の累計が267件 と、目標値の235件を上回っ ており、外部資金を活用しな がらアジア地域の脱炭素に資 する事業を積極的に展開して いることから、「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 アジア低炭素化センター推 進事業について、アジア低炭 素化センターを中核として、 都市インフラビジネスの推進 に積極的に取り組んでいる。 アジアにおける廃プラス チック対策プロジェクト推進 事業については、当初の計画 どおり順調にパイロット事業 に着手している。 サステナブル環境ビジネス 展開事業については、公募対 象期間が海外渡航制限の最中 であった影響により、海外事 業の開始を控える企業が多 かったが、海外での実証事業 等の進出数は一定数に達して いる。 以上のことから、「順調」 と判断。  【課題】 アジア低炭素化センター推 進事業については、引き続き 国等補助事業の外部資金の活 用による本市の経費削減を図 る必要がある。 アジアにおける廃プラス チック対策プロジェクト推進 事業については、継続的な各 国・都市のニーズの把握や、 ニーズに合致する市内企業等 の所有技術・ノウハウの発掘 が必要となる。 サステナブル環境ビジネス	「アジア低炭素化センター 推進事業」は、令和5年度か ら、「アジアの環境人材育成 拠点形成事業」と統合し、 「環境国際推進事業」として 実施する。引き続き、KITAや IGES等の関係機関との連携 を図りながらプロジェクトを 実施し、アジアの脱炭素化を 推進するとともに、環境国際 ビジネスの展開による市内企 業の受注拡大を目指す。 また、アジアにおける廃プ ラスチック対策プロジェクト 推進事業については、令和5 年度から事業名を「海外にお けるカーボンニュートラル促 進事業」に変更する。カーボ ンニュートラルに資する各 国・都市のニーズや市内企業 等の技術発掘を積極的に行 い、新たなパイロット事業の 創出を目指す。 サステナブル環境ビジネス 展開事業については、直接的 にビジネス展開に結び付ける 支援策としてだけでなく、 国等のより大きな補助事業へ ステップアップするための事 前調査としても有用であるた め、引き続き支援を継続して いく。
	53	⑨ ⑫ ⑭ ⑯	アジアにおけ る廃プラス チック対策プ ロジェクト推 進事業	環境 国際 戦略 課	国連環境計画 (UNEP)との連携 のもと、東南アジ ア地域の連携各都 市において、廃プ ラスチック対策プ ロジェクトを中心 に新たな事業発掘 に努め、循環型経 済（サーキュラー エコノミー）を促 進する。また、 UNEPや、海外を含 めた産学官連携に より市内企業のビ ジネス支援を強化 することで、これ まで本市が注力し てきた都市間連携 による支援に厚み を持たせ、環境モ デル都市としての ブランド力を向上 させる。	対象地域における パイロット事業着 手数  ※中期目標改訂 (R5年度目標設定 時)	—	目標	4 件	6 件	8件(R5 年度)	4,345	11,000	4,848	22,000	順調	対象地域において、当初の 計画どおり順調にパイロット 事業に着手しており、目標を 上回っているため、「順調」 と判断。			
								実績	5 件	7 件										
								達成率	125.0 %	116.7 %										

令和4年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 （千円）						
54		⑨ ⑫ ⑭ ⑮ ⑰	サステナブル 環境ビジネス 展開事業	環境 国際 戦略 課	「SDGs推進」や 「サーキュラーエ コノミー推進」に 適応する技術や製 品を持つ市内中小 企業等の海外展開 を支援する。これ により、循環型社 会及び脱炭素社会 の実現に貢献する と同時に、本市の 環境ビジネスの 「ブランド力の向 上」と北九州市 SDGs戦略の一つで ある「技術と経験 を活かした国際貢 献の推進」を実現 する。	海外での実証事業 等の進出数（単年 度）	5件 （R02年 度中小 企業ア ジア環 境ビジ ネス展 開支援 事業の 実績）	目標 2 件 3 件	実績 2 件 2 件	3件 （R5年 度）	1,606	18,000	7,007	2,700	順調	令和4年度は、公募対象期 間が海外渡航制限の最中で あった影響により、海外事業 の開始を控える企業が多かっ たが、海外での実証事業等の 進出数は、一定数に達してい るため、「順調」と判断。	展開事業については、助成を 必要としている市内企業等に 対し、効果的な周知を行って いく必要がある。		
							達成率	100.0 %	66.7 %										